

# 平成22年度高鍋町事務事業評価表

## ◎事務事業の概要

事務事業名	高鍋町持田地域まちづくり協議会				開始年度	平成19年度	
基本目標	町民が参画できる体制づくり				終了年度	-	
担当課(局)	政策推進課	担当係	総合政策係	記入者	中里 祐二	評価者	森 弘道
21年度決算	350	千円	22年度予算	150	千円	事業の実施方法	<input type="checkbox"/> 補助 <input checked="" type="checkbox"/> 単独
21年度人件費	364 千円		22年度人件費	72 千円		事業従事者数	0.05 人 0.01 人

## ◎事務事業の目的・内容

事業の目的	持田団地建替事業に伴うソフト事業で、下持田地域の交流機会の増進と賑わいの創出を推進する。
事業の内容	地域内にある自然や歴史資源、伝統文化を活用したイベントの開催で地域の交流、活性化を図る。

## ◎成果指標と活動指標

成果指標	成果指標名	何を狙い、どのような成果が得られたのか
	# 行事参加者数	地域のさまざまな催しを通し、持田地域の交流、人材育成、活性化が図られる。
	2	
活動指標	活動指標名	どれほどの活動をしたのか、事業の手法、手順等を詳細に
	# 会議回数	農繁期を除いて、毎月定例的に開催。事業終了後も継続させていく。
	2 作業・イベント	地域内の清掃活動・健康体操・文化財保護活動などを通して交流と活性化を図る。
	3	

## ◎達成状況

指標名		単位	20年度	21年度	22年度
成果指標	行事参加者数	目標値	500	600	500
		実績値	643	768	
		達成率	128.6%	128.0%	
	0	目標値			
		実績値			
		達成率	%	#DIV/0!	#DIV/0!
0	目標値				
	実績値				
	達成率	%	#DIV/0!	#DIV/0!	
活動指標	会議回数	目標値	8	8	10
		実績値	8	11	
		達成率	100.0%	137.5%	
	作業・イベント	目標値			40
		実績値			
		達成率	%	#DIV/0!	#DIV/0!
0	目標値				
	実績値				
	達成率	%	#DIV/0!	#DIV/0!	

## ◎事務事業の評価

妥当性 (必要性)	◎目的からして町が行うべきか ◎同様の事業を他課・他団体で行っていないか ◎事業廃止による影響があるのか	事業4年目を迎え、一部の事務的な部分を除いて、自主的に活動を行っている。
有効性	◎目標に対して成果は得られているか ◎成果向上のための改善余地があるか	地域をあげて行事に取り組むことにより、地域内の交流、活性化が促進される
効率性	◎活動量の効果は上がっているか ◎経費や時間の削減余地があるか	現在、地区毎に開催されている盆踊りやスポーツイベントを合同開催することにより、交流行事として持続可能なイベントとなっている。 また、経費については、高齢者福祉センターの利用料を活用できることから、半分以下に抑えている。
協働性	◎町民との協働の可能性はあるか(ボランティア・NPO等)	地域住民の主体性な取り組みを側面からサポートしていく

事務事業名	高鍋町持田地域まちづくり協議会	担当課(局)	政策推進課
-------	-----------------	--------	-------

◎総合評価(今後の方向性を含む)

総合評価	<p>◎担当の方針に対する評価者としての所見</p> <p>◎統括者として、どのように事業を進めるべきと考えているか、等</p>	<p>協議会は、国庫補助事業の3年が終了し、主体的な活動を継続している。会計検査の関係もあり、今後も活動継続が必須条件である。</p> <p>協議会役員の地域活動に対する意識は高く、町内のまちづくりモデルとしての発展が期待できる。</p>	今後の方向性				
			事業の方向性	拡充	現状維持	縮小	廃止
			現状維持		○		
			縮小				
			廃止				
			廃止	縮小	現状維持	拡充	
			コスト				

事務事業評価委員会 評価欄	事業	現状維持	<p>◎協議会を長期的に運営するには、スタッフの育成や費用的な面も必要になってくる。福祉センターとの運営も含め、今後の協議会を導いてほしい。しばらく活動状況を見ていくこと。</p> <p>◎地域の自主的な団体としてモデル的な方向に進むよう、支援が必要である。</p>
	コスト	縮小	